

ファイブスターカンパニー

本校では多くの実体験を伴うような取り組みを行っています。最近本校 HP に掲載された記事を見ても、“養鶏場を見学しました”、“とろみをつけるとどうなるの?”、“販売実習”、“石見神楽部の公演”…等々、体験するとかやってみる的な活動が多いのが特徴です。

人間力の育成にはたくさんの体験する機会を通して、非認知能力を育てることが必要だと考えています。学力テストなど数値で測定することができるものを認知能力といい、忍耐力、自制心、意欲、リーダーシップ、創造性、社会性などの人間的気質や性格的な特徴など、数値で図ることが難しいものを非認知能力といいます。認知能力を高めることはもちろん大切ですが、同じく非認知能力を育てていくことも学校教育として大切な部分です。ここのところを本校では様々な体験や実験などを通して育んでいこうとしているのです。12月21日に実施予定の邇摩高フェアもその一つです。

近年、AI（人工知能）が急速に普及してきており、人間に代わってAIが様々な仕事を行うようになりつつあります。しかしAIが人間にかなわないものもあります。それは、創造性であり、自分が抱えているものをいかに最適化するかというマネジメント力や、おもてなし・思いやりといったホスピタリティ、課題を発見する力などといわれています。企業が求める人材として最も重要としているのがコミュニケーション能力であるように、これからの社会では確かに人間らしい対応が求められるのだらうと思います。邇摩高フェアのファイブスターカンパニー2019 社長メッセージが今日の会議で示されました。『これまで学習してきたことを披露することや地域の方々に感謝する→ニマスマイルで元気よく接客し言葉遣いや礼儀にも気をつけよう！』これも、おもてなしの心であり本校伝統精神の「仁心」につながるものだと思います。

フェア当日の接客は、おそらくマニュアルというものが準備され、それをもとに“社員”がサービスを提供するのですが、相手のニーズを理解してそれにどう答えるか、自分で柔軟に考えて自分で行動することも大事です。様々な場面で“社員”である生徒が、目の前で起こる課題をどう最適化していくか、相手のニーズを考えてクレームや要求にどう対応するかといった学びの場であり、学習成果発表の場であり、人間力育成の場でもあります。体験を通して学び、そこから得たものを次に活かす。そして成長していくことで、体験が経験になり自分の財産になっていきます。

